



2011 Formula Nippon
Project μ /CERUMO・INGING Race Report
第2戦 オートポリス

□ 6月4日 (土) 予選

#33 国本 雄資 11位

< 公式予選 > 天候:晴れ | コース状況:ドライ



前戦鈴鹿では、最高峰デビューながらも国本雄資がポイント圏内を走行するなど、力強いレースを見せた Project μ /CERUMO・INGING。しかしながら予想外のマシントラブルでエンジン始動に手間取り、ピットアウトした時点で周回遅れとなってしまう、念願の初ポイント獲得はならなかった。

その無念を晴らすべく、Project μ /CERUMO・INGINGと国本が臨んだ第2戦の舞台はオート

ポリス。阿蘇の外輪地域にあることから標高が高く、長いストレートとアップダウンに富んだドライバーズサーキットとして知られるオートポリスは、国本にとって昨年も全日本F3選手権で経験しているコースながら、もちろん最高峰Fニッポンでは初走行となる。路面が粗くバンプいなことから、タイヤの消耗も厳しいコースではあるものの、初戦で得られた確固たる手応えを胸に、チームと国本は土曜午前のフリー走行を迎えた。

日曜にかけて天候が下り坂との情報もあったが、この日のオートポリス上空には爽やかな晴れ間が広がり、午前9時からのフリー走行はドライコンディションでのスタート。セッション開始と同時にピットアウトした国本は、まずはマシンとコースを確認すると2周でピットイン、午前9時09分に再びピットを離れると、ここから連続周回に入り、1分36秒590を皮切りに36~37秒のラップタイムでフィーリングを確かめる。この段階ではトップ10圏内につけた国本は、再びピットに戻りセットアップに修正を加えて行く。トップは既に1分33秒台に突入している。

セッション開始から25分が過ぎたところでピットを離れた国本は、いきなり1分35秒713、1分35秒730と35秒台のタイムを連発。その後もピットイン&アウトを行った国本は、1分35秒432にまでタイムを上げるものの、ライバル勢のタイムアップもあり、ポジションは12~13番手にドロップ。しかし、午前9時47分に再度コースインした国本は、1分33秒569をマークし3番手にジャンプアップ。さらに翌周には1分33秒507へとタイムを上げる。

しかし、セッション終盤にタイムアップするマシンが続出した結果、国本は最終的にこのセッションを10番手で終えることとなったが、全車中トップの25周をこなし、まずまずの手応えを得て午後のノックアウト予選に臨んだ。

トップ12台が勝ち抜けとなるノックアウト予選のQ1。午後1時50分にスタートする、この20分間のセッションに向けて、国

本は開幕戦同様にまずはユーズドタイヤでコースイン。セッション開始と同時にピットを離れた国本は、計測 1 周目を 1 分 34 秒 467 とすると、翌周には 1 分 34 秒 626 と安定したラップを刻んでフィーリングをチェック。ここでいったんピットに戻ると、ニュータイヤに履き替えつつセットアップ調整を行い、ラストの攻撃のタイミングを待つことに。

この間に国本のポジションは 14 番手まで下がり、このままではノックアウトされてしまう状況となったセッション残り 5 分。多くのライバルマシンとともにピットアウトした国本は、ゆっくりとタイヤを温めると、翌周に渾身の攻撃を敢行。1 分 32 秒 954 をマークし、この段階で 6 番手につける。続々タイムアップするライバル勢たちの攻撃によって、国本のポジションは下がって行くが、チェッカーが出された時点でも 10 番手にとどまり、見事国本は Q1 を突破し Q2 へと駒を進めることとなった。

10 分間のインターバルを置いて、午後 2 時 20 分から始まった Q2 は僅か 7 分間のセッション。インターバルの間にセットアップをさらに修正し、再びニュータイヤを装着した国本はワンラップ攻撃に賭け、セッション序盤はピットで待機。そして満を持して残り 4 分となったところでピットアウト、ライバルたちとともに攻撃に向かう。

ゆっくりとタイヤを温めた国本は、翌周に攻撃。しかし、ここでのタイムは 1 分 32 秒 990 で 10 番手。上位 8 台のみが Q3 への進出を許されるこの Q2 だが、既に国本はチェッカーを受けており、これ以上のタイムアップは出来ず万事休す。最終的にはさらにひとつポジションを下げ、11 番手が確定することとなった。

惜しくも Q3 進出を果たせなかった Project μ/CERUMO・INGING と国本だが、明日の決勝は天候を含め難しい状況が想定される。国本には開幕戦同様の好走とともに、11 番グリッドからの上位進出を期待したい。

ドライバー／#33 国本 雄資

「Q1 を終えた後、Q2 に向けてセッティングを少し変えて行っただけですが、残念ながらそれが良い方向に行かなかったです。Q1 と Q2 でコンディションがかなり変わったように思いますが、そこにうまく合わせ切れなかったことと、セクター 3 の高速コーナーが今ひとつ乗り切れていないこともあって Q2 で終わってしまいました。基本的にフィーリングは悪くないのですが、前回と違って土～日曜の 2Day 開催で走行時間が少なく、なにかあつという間に終わってしまった感じです。明日は 11 番手からのスタートですが、コンディションなど分かりませんが、とにかく僕は走りに集中したいと思います」



監督／立川 祐路

「前回の鈴鹿の予選が良かっただけに、欲を言えば今回も Q3 まで進出してもらいたかったのですが、まだ 2 戦目のルーキーとしてはそれほど悪い状況ではないと思います。特に今回からスケジュールが通常通りに戻り、朝 1 時間走ってすぐ予選というタイトなスケジュールの中での戦いですから、ある程度厳しい状況もあるだろうと予想していましたね。ただ、その状況の中でも着実に一歩、一歩、国本は頑張っていると思うので、明日までにさらにクルマとドライビングのレベルを上げて、決勝でも追い上げるレースが出来るようチームがしっかり戦略を考えて戦いたいですね」